

THCU Chronicle *Heart* No.20 Summer 2015

第20号



平成26年度学位記授与式・修了式 並びに平成27年度入学式を挙行

平成27年3月7日(土)に平成26年度学位記授与式・修了式を、同4月2日(木)に平成27年度入学式をそれぞれ挙行了しました。

学位記授与式・修了式は、五反田のゆうぽうとホールを会場に、卒業生・修了生479名が出席。理事長、学長、来賓の方々からお祝いの言葉をいただくなど、晴れやかな門出を飾るにふさわしい式典でした。夕刻には、目黒雅叙園にて学部卒業生の「卒業を祝う会」が盛大に行われました。

入学式は、同じくゆうぽうとホールを会場に挙行了しました。新入学生は、大学院生60名、学部生490名、助産学専攻科生20名が学長

の入学許可宣言により正式に本学の学生となりましたが、学長式辞、理事長告辞に続き、大勢のご来賓の方々から温かい激励の言葉をいただくなど、新入学生及び列席した保護者の方々を含め、4年間のキャンパスライフが始まることへの期待と緊張感が見て取れました。式典が終了した後、日本看護協会会長並びに本学の副学長、看護学科長である坂本 すが先生による講話が実施され、ご自身の体験に基づく看護師の在り方についての有意義なお話をいただきました。

CONTENTS

目次

- 2 THCU NEWS!! ネパール地震活動報告
- 3 「学生メディカルラリー 2015」に出場して
東が丘・立川看護学部 看護学科
- 4 平成26年度春期FD研修会報告
医療保健学部 看護学科FD委員会
新生「看護学概論」のご紹介
医療保健学部 看護学科
- 5 研究室紹介：小城明子教授 研究室
医療保健学部 医療栄養学科
- 6 患者シミュレータを用いた体験型医学教育の実施報告
データベース演習における映像配信システムの活用
医療保健学部 医療情報学科
- 7 就職支援のための「第1回卒業生との懇談会」
コンタクトグループへの取り組み
東が丘・立川看護学部
- 8 院生の声 大学院 医療保健学研究科
- 9 ハワイ研修に参加して
免許を持ちながら再び助産を学ぶということ
大学院 看護学研究科
- 10 平成27年度入学者選抜状況
- 11 海外研修
- 12 平成26年度4年次生学科別進路状況

ネパール連邦民主共和国地震災害に対する 国際緊急援助隊医療チーム 一次隊のチーフナースとしての活動報告

2015年4月25日午前11時56分、首都Kathmanduの北西約80kmのSaurpaniでマグニチュード7.8の地震が発生し、ネパール政府は非常事態宣言を出して各国に支援を要請しました。日本国政府は、4月26日に緊急援助隊救助チーム70人、4月28日に緊急援助隊医療チーム（Japan Disaster Relief Medical Team; 以下JDR）一次隊46人、5月7日に二次隊34人の派遣を行いました。今回の医療チームは、これまで展開してきた外来診療体制に、手術機能と入院機能を加えた機能拡充チームという新たな体制での派遣ということで、人・物・情報の管理と調整、システム整備などが一次隊のチーフナースとしての重要な使命でした。

Kathmanduに到着した4月29日19時から開かれるFMT（Foreign Medical Team）会議に団長、副団長とともに参加し、FMTのコーディネーターであるネパール政府の医師と活動地について協議を行いました。その結果、JDRは、Sindhupalchok郡のBarhabiseというところで活動することが決まりました。

しかし、Barhabiseまでの険しい山岳の道路は土砂崩れなどで寸断され陸路での移動ができない状況でした。また機能拡充を展開する7トンもの資器材の空輸に時間がかかり、直ちに機能拡充チームの展開を行うことはできないという困難に直面しました。ネパール軍のヘリコプターで4月30日午後に運搬可能な一部の資器材とともに約1/3の隊員が先遣チームとして現地へ移動して5月1日から何とか外来診療を開始しました。Kathmanduに残った隊員は、初めての機能拡充チームが円滑に展開できるようシミュレーションを繰り返しながらシステムの点検と修正を行っていきました。また、書類のネパール語への翻訳、識字率が低い可能性を考慮した問診用の症状イラストを作成するなどきめ細かな医療支援が展開できるよう準備を整えながら資器材の到着を待ちました。

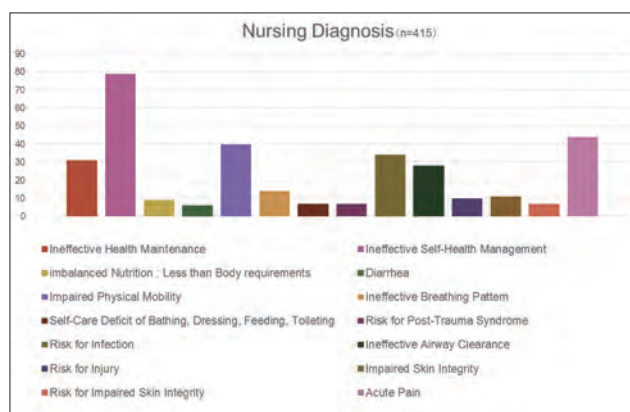
ようやくすべての資器材が届き、5月4日にバス2台、トラック4台、ランドクルーザー1台でコンボイを組んで85kmの山道を約3時間かけて移動しました。日中の気温は30℃くらいまで上昇するため熱中症に注意しながら、その日のうちに大がかりなテントの設営を行い、麻酔器やME機器を設置して手術室の準備が整えられました。

いよいよ5月5日から機能拡充チームの活動が始動しました。JDRとして初めての手術、入院病棟の運営でしたが、Kathmanduでの準備も功を奏して順調に活動が展開されていきました。一次隊の活動期間では、偽関節で左上肢が使えなくなったかもしれない少年や顔面外傷の少女など8人の患者さんの手術が行われました。これらの手術は、単に予後を左右するというだけでなく、身体機能や整容の観点から彼らの人生に影響を与える医療支援であると実感しました。安全に全身麻酔と手術が実施でき、術後管理もできる機能拡充チームの意義を確信した瞬間でもありました。

さらに看護チームは看護診断を行うということにもチャレンジしました。グラフ1に示す結果から、被災地という環境の中で、健康維持や健康管理が困難であること、感染性疾患のリスクの存在、身体の可動性の制限や急性疼痛による生活への影響などが示唆されました。世界で初めてと思われる災害時の緊急医療支援活動における看護診断結果を報告書の一部としてネパール政府へ提出をして、5月10日帰国の途に就きました。

最後に、今回の派遣を許可してくださった大学関係者の皆様やご支援くださった皆様に心から感謝申し上げます。

東が丘・立川看護学部 准教授 石井 美恵子



グラフ1. JDR外来受診患者645人中415人の看護診断



コマンドポスト（指揮所）でのチーフナースの活動風景



テントの手術室

「学生メディカルラリー 2015」に出場して

私達、同好会「FAST」は、3月に開催された学生メディカルラリー 2015に参加し、優勝することができたので報告いたします。

「FAST」は、救急災害医療について学ぶことを目的とした同好会です。具体的な活動内容として、学生メディカルラリーやスポーツイベントの救護活動への参加、シミュレーショントレーニングを含む勉強会を行っており、年間70回程活動しています。

学生メディカルラリーとは、医学生・看護学生・救急救命士学生からなる医療系学生チームが、救急外来や院内急変対応、交通事故や災害現場などの多様な状況を想定したシミュレーションを行い、状況判断能力や模擬傷病者に対する処置の正確性・迅速性を競う競技会です。この度、「FAST」が参加した学生メディカルラリー 2015では関東や東海地方から11チームが参加し、日ごろの勉強の成果を競い合いました。他チームは、医学生・看護学生・救急救命士学生の混合チームでの出場でしたが、「FAST」は、唯一看護学生だけの編成で出場したチームでした。

今回の学生メディカルラリー 2015への参加を通して、医師・救急救命士の役割を学んだことにより、一人の患者を助けるためには、それぞれの専門職が自らの専門性を発揮することが必要不可欠であることを学びました。そして、看護師としての専門性を発揮するためには、自律することが必要であることを実感しました。今回のメディカルラリーの練習においてチーム医療を展開していく中で、看護師として自律する必要性を感じる場面に遭遇しました。救急外来における診察の場です。診断・処置ができるのは医師であるために、医師が医療の中心となりやすい状況が生まれます。その結果、看護

師として気付いた点があったとしても、診断・処置ができる医師の視点に依存してしまったために介入できず、看護師としての役割を果たすことができない状況が生まれてしまいました。

このような状況で看護師が専門性を発揮するためには、看護師として自律、つまり、看護師としての視点を持ち、他職種との連携を図りながら、患者を救うという目的に向かって、看護師として、なにをどのような方法ですべきなのかを考えていくことが必要であると思いました。

私達は、現在は学生という立場にいますが、卒業後、実践力のある自律した看護師となれるよう、今後もFASTとして様々なことに挑戦し、経験を積み重ねながら学びを深めていきたいと思います。

東が丘・立川看護学部 看護学科3年 江連 佑真



オープンキャンパス・入試説明会 2015年度のオープンキャンパス及び入試説明会を下記の通り行います。

- | | | |
|-----------------------------------|--|-------------------------------------|
| ▶ オープンキャンパス
(入場無料・予約不要) | ● 世田谷キャンパス …… 7月18日(土)・19日(日) | ● 国立病院機構キャンパス …… 8月1日(土) |
| ▶ 進学ガイダンス | ● 五反田キャンパス …… 8月15日(土)・16日(日) | |
| ▶ 入試説明会 | ● 五反田キャンパス …… 6月20日(土) | ● 五反田キャンパス …… 11月21日(土) |
| ▶ 医愛祭(入試相談会) | ● 世田谷キャンパス …… 10月3日(土) | ● 世田谷キャンパス …… 11月7日(土)・8日(土) |
| ▶ 医療情報学科 見学会 | ● 世田谷キャンパス …… 8月6日(木)～8日(土) / 8月25日(火)～28日(金) | |
| ▶ 医療栄養学科 学科体験 見学会 | ● 世田谷キャンパス …… 8月22日(土) | ● 国立病院機構キャンパス …… 8月29日(土) |
| ▶ 東が丘・立川看護学部 見学会 | ● 国立病院機構災害医療センター …… 8月23日(日) | |
| ▶ 新高校3・2年生対象進学ガイダンス | ● 五反田キャンパス …… 平成28年3月19日(土) | |

医療保健学部看護学科平成26年度春期FD研修会報告

医療保健学部看護学科では開学以来、継続的にFD（faculty-development）活動を実施している。今回は、年2回開催しているFD研修会のうち、平成27年3月19日に五反田キャンパスで実施された「医療保健学部看護学科の未来を展望する」について紹介する。

このFD研修会は、平成27年から開始される新カリキュラムに先立ち、変わりゆく社会情勢のなかで、看護学科が理念に根差し、どのような教育を目指すのか、あらためてビジョンを共有し、教育活動を推進することを目的として企画された。

はじめに3名の教員が、看護学科の組織運営の方針、これからの日本の看護のあり方と看護学科としての展望、そして、大学進学を目指す若者たちの実態について話題提供を行った。次に、各領域の教員から、それぞれの専門領域で求められる人材が提案された。その後、参加した教員は「人材育成」「研究」「社会貢献」に分かれ、領域と職位が混合となるように構成した6つのグループで、「これからの看護学科」についてディスカッションを行った。最後に、各グループが成果を発表し、全体をみながら事実と向きあい、流れを読みながら、自由な発想でチーム医療をけん引する人材の育成や、社会貢献をより意識した研究の推進などが課題として提案された。

今後の看護学科の教育活動につながるディスカッションができ、有意義な研修会であった。

医療保健学部 看護学科FD委員会 准教授 阿部 桃子



FD研修会の模様

学生にとっての最初の看護の学びを大切にする、
新生「看護学概論」のご紹介

医療保健学部看護学科では、社会、医療、看護の変化に対応しながら、現場に根付き社会に貢献できる力をもつ看護人材を育成することを目指して、今年度入学生より主として専門職の教育に配置された科目についてカリキュラムを変更しました。

その中でも大きく変わった科目の一つとして1年生前期に配置されている「看護学概論」があります。これまでも「看護とは何か」について1年生が学ぶ科目として位置づけられていましたが、より学生に看護学を学ぶ最初の段階から「看護を広くとらえる、看護の対象として個だけでなく“社会”も含めたものとして理解させる」ことを意図して、看護学科全領域の教員が関わる科目となりました。単位数も2単位から3単位となり、最初の約1か月半で、看護を考える上での基本的な概念、知識について学び、5月中旬から、様々な場で行われる看護について、各領域の教員からオムニバス形式で講義を受けます。その後、6月初旬に看護が行われている様々な場での2日間にわたる「見学演習」を行います。この見学演習の目的は、「看護実践の場に身をおき、それまでの授業で学んだことを具体的に理解する」であり、学生は新しいユニフォームに身を包み、

看護大学生として初めて実践の場に出て、それまで学んだ知識と実践の場で見たものをつなげて理解する作業をします。これまでのカリキュラムでは、学生が最初に実践の場に出るのが1年生最後、2月の基礎看護学実習Ⅰでしたが、新カリキュラムの意図の1つに、「看護職を目指して入学した学生がその意識の高いうちに実践の場で学べるようにしたい」ということもあり、1年前期の早い時期に見学演習を入れました。そのため今年度からは、実習に関するオリエンテーションや感染予防についての説明もかなり早い時期に行います。

見学演習で学生が学んだこと、現段階での看護観については、プレゼンテーションに関する講義、準備の期間を取った後に全員1分間プレゼンテーションで発表し合います。このプレゼンテーションから、学生達が看護学概論の授業や見学演習を通して何を学んだのかを聞くことを、今から教員一同楽しみにしているところです。

医療保健学部 看護学科 教授 横山 美樹



研究室紹介：小城明子教授 研究室



本学に着任し5年目を迎えました。これまで、民間企業、医療機関、教育機関とさまざまな職場を経験してきましたが、管理栄養士養成校はまったく初めてのこと。初めの3年間は、与えられたことをこなすことに精一杯でした。4年目からは徐々に余裕が生まれ、これまでの職場と比較しながら、本学の強み、弱みを感じつつ、今、ここで自分がやるべきこと、自分にできることを意識するようになってきました。研究室といえるような活動はまだ十分に行えてはいませんが、私の専門分野や学会活動について紹介したいと思います。

私の専門分野は摂食リハビリテーションといって、さまざまな疾病や加齢による機能低下を原因とする摂食嚥下障害に対し、その弊害を改善するための医学的アプローチのことです。摂食嚥下機能の可及的改善と合わせ、栄養障害や肺炎などが無い医学的に安定した状態へ導くことが主なゴールとなりますが、忘れてはならないもうひとつのゴールに、患者のQOL向上があります。

私がこの分野に足を踏み入れたのは2002年の頃。介護老人保健施設勤務時代に、高齢者の摂食嚥下機能に適切な食事を提供せねばならず、苦慮したことがきっかけです。“摂食嚥下機能に適切な食事をどうしたら確実に提供できるか”を大テーマに、系統的に学びたいと歯科系の大学院に進学したのが第一歩でした。ですが、大テーマを解決するためには、摂食機能に適切な食事のあり方、その食事を適切に提供するシステム、摂食機能に適切な食事を判断するための簡易評価法、多職種連携のあり方など、数々の小テーマをクリアしなくてはならないことが見えてきました。この分野は日本では比較的新しく、経験的にはわかっているけどエビデンスがないということが多いため、小テーマはさらなる小テーマとなっていきます。現在でも、足踏みをしているような感覚でその数々の小テーマに取り組み、小さな前進を重ねていっています。4年次生の選択科目である卒業研究でも、興味のある学生にはこのさらなる小テーマに取り組んでもらっています。

また、学外ですが、日本摂食嚥下リハビリテーション学会においても、小テーマをクリアすべき活動を行っています。摂食嚥下障害に配慮した食事を“嚥下調整食”と、リハビリ時に訓練用として利用

する食べ物・飲み物を“嚥下訓練食品”といいます。それらの標準化に向けた活動です。学会において、その委員の任を受け、一昨年、成人の嚥下調整食分類を完成させました。直近の約3か月間は、他の委員と夜遅くまで文案を練る作業に追われヘトヘトでしたが、自身が切望していたものを、自身が関わり、世の中に出すことができた達成感は味わい深いものがあります。現在はその広報活動と並行し、小児の嚥下調整食を検討中です。まだ始まったばかりで終わりが見えませんが、こちらの完成も楽しみです。

大テーマに引かれつつも、そればかりでは煮詰まってしまうので、少し視点を変えた派生テーマにも手を出しています。“食べ物の有する食感の意義を探究する”です。食感は味と並んでおいしさに関わる要素ですが、それ以外の意義もあると思っています。例えば、よく噛むと認知機能が改善する、ストレスが軽減する、肥満が改善するという話を聞いたことがあると思いますが、これには噛むという咀嚼運動だけによるものなのかどうか、咀嚼の際に生じる口腔内刺激も関与しているのではという仮説です。この研究は、裏を返せば、嚥下調整食のデメリットの検証にもつながります。安全のため、必要以上に口腔内刺激を減弱させた食事を提供している給食施設が多くみられます。それらに対し警笛を鳴らしたいというののひとつのねらいです。まだ助走段階の研究ですので、またいつか、皆さんに成果をご報告できるようにしたいと思います。

始めに、“本学の強みを感じつつ”と書きましたが、本学には栄養系だけでなく、医療情報系や看護系の学部・学科があり、それらの専門家が点在する点はひとつの大きな強みと思っています。リハビリテーションは多職種連携で成り立つものです。臨床と同様に、研究でも、さまざまな専門家とコラボしていけば、新たな発見も得られるのではと思っています。既にお声掛けさせていただいた先生もいらっしゃると思いますが、拙稿を読んでご興味をもたれた先生方、ご一緒にしませんか。

患者シミュレータを用いた体験型医学教育の実施報告

医療情報学科では、平成26年度に最新型の患者シミュレータ（SimMan 3 G）を導入したことを本誌19号にて報告していますが、昨年度より本シミュレータを用いた体験型講義を実施しています。今回はその事例を幾つか報告します。

1年次の生体情報演習では、病態生理の理解を目的とし、心電図や血圧、脈波などを計測し、解析する講義を実施しています。従来では学生同士のいわば健常者での測定しかおこなうことができませんでした。例えば極度の低血圧では心臓から近い部分の脈拍（鼠径部や頸部）は検知できますが、手首や足などの抹消の脈拍は検知できません。そこで、患者シミュレータを用いて低血圧を模擬することで、実際に脈に触れてこの違いを体感することができます。また、治療プロセスとして昇圧剤を投与し、血圧を上昇させ、末梢の脈拍が検知できることを確認できます。座学では、このような病態生理の理解には限界があり、シミュレータを用いて病態変化を模擬することで、座学で得た知識をより深いものにすることができます。

また、生体情報演習では一時救命措置（BLS）のトレーニングを実施しています。従来までは、単純な人形を用いて胸骨圧迫をおこない、学生同士でうまくできていたかを主観的に評価していました。シミュレータ導入後は、胸骨圧迫の回数や深さ、圧迫の中断時間を定量的に評価することができ、加えてビデオによるデブリーフィング（振り返り）が可能になりました。講義の最後に、デブリーフィングをおこない、適切な処置ができていたか、何が問題であったのかを参加者全員で議論することができます。昨年度は、胸骨圧迫の適切な回数は理解していましたが、深さについては不十分であるとの結論に至りました。このような議論はシミュレータを用いることで可能になったものです。本取り組み事例は、9月にグラスゴーで

おこなわれるヨーロッパ国際医学教育会議（AMEE 2015）にて発表する予定です。

3年次の臨床検査総論においては、心電図や呼吸機能などの生理機能検査の理解のため、患者シミュレータを用いた体験型の講義を実施しています。また、年度末に超音波診断装置が導入され、画像検査に関する講義において今後活用する予定です。

体験型の講義は、より深い知識の理解につながるだけでなく、学生の自主性を促すことも可能になります。このような体験型の講義は導入から日が浅く、試行錯誤の段階ではありますが、思考を凝らしより良い教育ができるよう精進したいと考えています。

医療保健学部 医療情報学科 助教 いしだ かい 石田 開



学生による脈の触診の体験

データベース演習における映像配信システムの活用

データベースは情報システムの骨格となる重要な技術です。医療情報学科では2年次にデータベース論、3年次にデータベース演習の科目が配置されており、データベースの理論と実践を学ぶことができます。

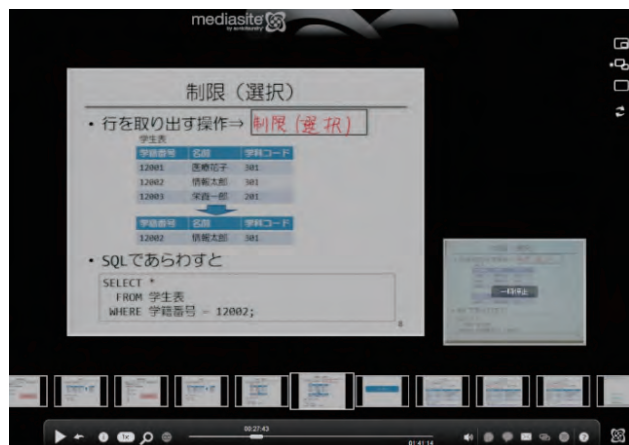
データベース演習の講義では、多くのシステムで使われているリレーショナルデータベースを操作するためのSQLという言語の学習を行っています。SQLに限らず、情報処理技術は基礎の積み重ねが重要です。毎回の講義で課せられる演習課題をよく復習し、きちんと理解することがSQLをマスターする近道と言えます。

医療情報学科では、学生の復習を支援する取り組みの一つとして、4年前から映像配信システムを導入しています。これは、毎回の講義をアーカイブ（録画・編集）し、サーバへアップロードすることで、Webで過去の講義を見ることができるというものです（右図参照）。

医療情報学科では、3年次に病院実習・企業実習が配置されており、学生は実習期間中、その他の講義を受けることができません。映像配信システムを利用することで、学生は欠席した回の講義を聴講することが可能となりました。実習期間中、学生は大学に来ることはないのに、補講などで対応することも困難な状況にあります。本システムはインターネット環境さえあれば、どこからでも利用することができます。したがって、学生は学外からでも欠席した回の講義を聴講することができます。これにより、実習から復帰後もスムーズに講義についていくことができると考えられます。

今年度、映像配信システムはバージョンアップが行われ、全学で利用できるようになりました。本システムが広く利用されることで、学生の復習支援の一助となることを願っています。また、学生は積極的に映像配信システムを活用し、不明点をよく復習することで、より一層、講義内容の理解を深めて欲しいと思います。

医療保健学部 医療情報学科 助教 すぎた じゅんいち 杉田 純一



映像配信システムの画面

就職支援のための「第1回 卒業生との懇談会」

東が丘・立川看護学部では就職支援委員会を設置し、学生の意思と主体性に基づいた就職・進学活動を尊重し、連携する国立病院機構をはじめとした病院への就職や大学院等への進学を支援する体制を整備しています。

本学部は2010年4月にスタートし、2014年3月にはじめての卒業生を社会に送り出しました。そこで、本委員会の取り組みの1つとして、2015年2月26日に学部の3年次生を対象に「第1回 卒業生との懇談会」を実施しました。首都圏の病院等で活躍している17名の卒業生を招き、5分程度で所属施設の概要や勤務の状況、近況などを全体に報告していただきました。その後、卒業生が待機する各テーブルを学生が自由に訪れ、全体の説明会では聞けない進路決定のポイントや就職活動について相談する個別相談会を行いました。参加した学生からは、「先輩方の経験が聞けてよかった。」、「卒業生からの答えはとても参考になった。」、「先輩から声をかけてくださったので、連絡先も交換しやすく良かった。」などの意見が寄せられました。

今回実施した卒業生との懇談会は、学生がインターンシップなどでは知ることができない新人ナースの実態等を知る機会となり、4年次生になってからの就職活動をより現実的に考え、主体的な就職活動を促す支援となったようです。また、将来的には就職後のネットワークを築くきっかけにもなると思われ、次年度以降も継続して開催をしていきたいと考えています。

東が丘・立川看護学部 災害看護学コース 精神看護学領域
准教授 伊藤 桂子



全体説明会



個別相談会

コンタクトグループへの取り組み

開学当初から計画されたコンタクトグループの活動も今年で5年目を迎えました。コンタクトグループは1年次から4年次までの学生をシャッフルし、1グループ約20名の学生と1名の教員から構成されています。コンタクトグループでは「豊かな学生生活を送ることができるよう、各学年の学生と教員で組織され、学生相互の交流、情報交換をする」ことを目的としています。コンタクトという名前が示すとおり、コミュニケーションおよび密接な相互作用をとるグループで、学習上で関わる機会が少ない上級生と下級生の交流により、貴重な情報交換のチャンスとなっています。

コンタクトグループミーティングでは、学習方法、試験対策、演習および実習方法、ゼミナール選択、国家試験対策などの情報交換が活動の中心になっています。教員も、修学上の問題や学生生活全般にわたる悩みの相談にのることもあります。参加した学生からの声として、「先輩からゼミの情報が得られるいい機会となる」、「具体的な実習の情報が得られる」、「効果的な学習の進め方が質問できる」等が聴かれています。

ミーティングは年に2回、定期的に行われ、お菓子と飲み物を準備して茶話会形式で進みます。個室を利用して楽しく和やかな雰囲気で行われます。グループメンバーで互いに自己紹介をし、顔見知りになることにより、今後、困った時や情報を得たい時の窓口となることのできるのです。教員はグループのファシリテーターとして、学生の主体性を尊重し、運営を任せたり、リーダー選出を促したりしています。また、1つのグループをさらに小規模に再編成し、コミュニケーションを取りやすく配慮しているグループもあります。

交流は年2回のミーティングだけに留まりません。新入生に対す

るキャンパス紹介ツアー、駒沢公園での自然と季節の変化を楽しむ散策、白熱するグループ対抗バレーボール大会、貴重な昼休みを利用したランチミーティング、東京ラーメンショーへのグルメ探索、調理と自然を楽しめるバーベキューなど、多岐にわたります。現代学生らしく、メールアドレスを交換し、必要時にメールやラインを活用して交流を深めています。

担当教員は、年度末にコンタクトグループの情報交換会を行い、出席率を高めるための運営上の工夫や悩みを情報共有しています。教員は学生個人の自由と責任を尊重しつつ、コンタクトグループが縦の繋がりによる情報交換の場の提供になるように、さらなる活性化を目指しております。今後も学生支援の一環としてコンタクトグループの活用を推進し、交流を深めてまいりたいと思います。

東が丘・立川看護学部 看護学科 学生生活支援委員会
コンタクトグループ担当 朝澤 恭子
(臨床看護学コース母性看護・助産学領域 講師)



院生の声



「大学院で研究スキルを磨きたい」私
が大学院を志した理由です。

わが国では生涯学習社会の構築に向け
た制度改革が進められており、社会人
を対象とした大学院の受け入れ体制も
拡充されています。このため、大学院
で学ぶ社会人学生数は90年代末と比
べ2倍以上に増加していると文部科学

省は報告しています。近年、経営戦略に関するMaster of Business
Administration (MBA) を取得できる大学院も次々と開講されて
おり、各メディアで取り上げられるなど社会人大学院の注目度が増
えています。

現在、私は臨床検査技師として都内の大学病院に勤務しています。
他の医療職と同様に、私の職種でも通常の検査業務に加え、学術向
上のために研究を行うことが求められています。私自身も、これま
でに業務のかたわら学会発表や論文報告を何度か行ってきました。

しかし、研究に関するノウハウを体系的に教わる機会が少なかった
ため、自分の研究手順に不安を抱いていました。

本大学院のように、感染制御学を学べる社会人向けの大学院は全
国的にも稀です。また、教員の先生方は、それぞれの分野でたいへ
んご活躍されている著名な方々です。大学院で研究スキルを磨きた
いと考えていた私は、本大学院の教育理念や小林寛伊先生のグロー
バルなビジョンにも感銘を受け「ここで学びたい」と強く思いま
した。

働きながら大学院に通う生活を始めてから1年が経ちました。カ
リキュラム等は社会人に向け配慮してくださっているものの、仕事
と大学院を両立するためにはやはり職場の協力と家族の理解が不可
欠です。支えてくださっている方々に感謝しながら、身に付けた研究ス
キルを後輩技師の指導につなげ、研究もしっかりできる人材の育成
に役立てたいと考えています。

医療保健学研究科 修士課程2年 感染制御学領域 あんどう たかし
安藤 隆



私は、都内の大学病院で臨床研究コー
ディネーター (CRC) をしております。
この職種は、国内における臨床研究 (治
験) の体制整備がされ十数年前に誕生し
た職種です。私は、看護師として勤務し
ておりましたが、ある日突然の人事異動
でCRCをしています。臨床研究に参加い
ただく患者さんの安心・安全が最優先で

すので看護師の資格を活かしつつ、CRCとしての知識やスキルを
積み上げて仕事をしております。

私が看護師として就職した頃、昔のことですが配属先の師長に「看
護師は大卒の時代が来るから大学に行きなさい」と言われ大学を卒
業しました。その後は、仕事と子育ての多忙な日々を過ごし「大学
院進学」は、封印してまいりました。しかし、CRCとしてマネジ
メント能力は、絶対的であり論理的思考が重要であると痛感しまだ
まだ研鑽しなければという思いでございました。数年前になりますが、
日本看護協会ニュースで当大学院に看護マネジメントのコースがあ

ることを知り、「大学院で学びたい」と思う気持ちがふつふつと沸
いてきました。仕事や家庭の状況が落ち着いてからと思っておりま
したが、先輩に「今よ!」と背中を押され、一大決心をして受験い
たしました。私にとってこの大学院は、専攻領域や通学距離が最高
の条件です。自転車での通学です (笑)。入学後は、想像以上に過
酷な日々をすごしております (泣)。当大学院の特徴として全専攻
領域での学生間でのディスカッションは、他職種であり学びに広が
りがあります。充実した1年があつという間に過ぎ、2年目に突入
しました。修士論文研究では、指導教員も日曜祝日を返上し指導し
てくださいます。テーマを聞いていただき研究の基礎、プロセスを
指導教員とのディスカッションを通じて深め確かな研究手法を学ん
でおります。大学院生活も残り10ヶ月です。走り続けなければ先が
見えませんが、研究成果を实践に、実践の課題を研究できる力を身
につけ卒業したいと考えております。

医療保健学研究科 修士課程2年 看護マネジメント学領域
ひらの ふみよ
白比野 文代

平成27年度入学式 (4月2日) におけるご来賓並びに学長、理事長

NTT東日本関東病院
亀山 周二院長



独立行政法人国立病院機構
京都 賢一 副理事長



濱野 健品川 院長



青木 英二 黒区長



木村 哲 学長



田村 哲夫 理事長



ハワイ研修に参加して

診療看護師（NP）ハワイ研修（2015年3月8日～14日）に参加して、日本人NPによる「米国の医療保険制度・NPの役割と活動の実態」についての講義にはじまり、3ヶ所の病院見学、NPの教育を行っている大学の訪問、クリニック、ホスピス、ミニツクリックの見学などを体験しました。そこでは、NPがクリニックなどで自律して活躍している様子や、医師、看護師とチームを組んで活動している状況を実際に見聞することで、今まで講義や資料で学習してきた知識をより深めることが出来ました。

FNP（Family Nurse Practitioner）のお話の中で、今後、先端医療・高度医療だけではなく、プライマリケアに係る医療費を多くしていく必要があり、その中で中心的な役割を果たすのはNPであるということを知りました。アメリカと日本では保険制度が異なりますが、オバマケアが導入されたにもかかわらずアメリカでは未だに皆保険制度には至っておりません。また保険会社は不要な医療処置や処方に対しては保険から支払わないこともあるとのこと。患者さんは自分が受ける医療を自ら選択しており、患者としても自律していることを知りました。

患者さんがNPの診察を選択する背景として、一つは前述した保険、診療報酬の問題があると思います。NPの診療報酬は医師のその7～8割程度であり、患者の負担が少なく済むためです。もう一つはNPの裁量権が幅広く認められており、プライマリケアにおいては医師とほぼ同等の診療が受けられるということです。ハワイのNPの場合は、死亡診断書が発行できないだけでは全ての診療が認められていました。しかし、患者さんへの対応の仕方として、基礎教育の課程で病気を中心に学んできた医師と、生活モデルを学んできている看護師とは根本的に違うことを小児NPの方が強調されていたのが印象的でした。

日本の診療看護師はアメリカと違い、現時点では診療報酬を得ることが出来ません。しかし医学的な視点でありながら看護の視点も持ち合わせた診療看護師は、超高齢社会を迎えた日本でもきっと患者さんの生活を支える力になると、少し自信がもてました。これから実習や臨床で医師から多くのことを学びますが、医学的視点を学ぶ中でも看護師としての視点を意識し、患者さんに対して、診療看護師独自のアプローチが出来るようになることを目指していきたいです。

看護学研究科 修士課程 高度実践看護コース もりいずみはじめ 森泉 元



免許を持ちながら再び助産を学ぶということ

私は、助産師としての自分に自信が持てるようになる前に昇進し、看護師長となった。その後、管理に関連した研修に参加させていただき、看護師長としての学びを深める機会を得ることが出来た。しかし、管理業務に時間が割かれ、時間的にも体力的にも助産師としての最新の知識を得る機会が作れず、助産師の専門性を深めることができていないまま働くことに負担と不安を感じ、悩んでいた。

そのような折に、看護部長から休職して進学するお話をいただいた。当初は、大学受験を控えた子どもを抱えながら、自分まで大学院生になることは現実的ではなかった。しかし、助産師として力不足を感じているコンプレックスが軽減され、職場にも新しい風を入れることが出来るのではないかという思いが沸々と湧いてきた。また、休職制度を活用できることが後押しとなり、再び学生となる決意をした。

いざ入学し、自分の子どもと大して歳の変わらない若者達とクラスメートになったことは、カルチャーショックと同時に貴重な体験であった。今どきの新人看護師と言われて久しいが、今どきの大学院生と共に学ぶことに気力は必要である。助産師免許をもった我々3人の学生は、時に、母親のように授業態度や服装を注意し、時に、先輩として就職した際のリアリティショックを軽減し、社会で自分を活かしていくためには感情をコントロールして行動していかなければならないことも伝えている。免許取得コースの実習前の分娩介助練習に付き合ったり、彼女達の実習での悩みや疑問、否定的な感

情を伴うような体験に対して、免許を持ったクラスメートとしてアドバイスできる者が隣の席にいるということは、大きな利点ではないだろうか。一方、我々にとっても職場に戻り新人教育をする際に、彼女達と過ごした経験が役に立つに違いない。

家事と学業の両立も大変であった。途中、6週間の助産院実習があり、そのうち3週間は実習先に泊まり込みとなったが、家族が見様見真似で家事をしてサポートしてくれたのには感謝している。私の部屋に貼られた「フリースタイル分娩体位別回旋図」のポスターの出産場面を見て、子ども達は驚いていたが、ある意味ストレートな性教育であったかもしれない。子どもにとって、親が専門職業人として学んでいる姿を見せることは意味があると考えた。

大学院生として学ぶことは本当に楽しい。働いていた時に感じていた疑問を第一線で活躍している講師に質問できること、少人数制故に手厚い指導が受けられることに感謝している。カンファレンス等での先生方のファシリテーターとしての関わりも非常に勉強になる。職場に戻った際に、現場の問題に取り組む姿勢を学ばせていただいていると感じる。学べば学ぶほど、自分が看護師長として知識が足りなかったことや自分の助産師としてのありかたを内省するが、その機会をいただいた意味を考え、今後の職場の変革に活かしていきたい。

看護学研究科 修士課程 高度実践助産コース つつい しほ 筒井 志保

平成27年度 入学者選抜状況

平成27年度の入学者選抜は、大学入試センター試験利用入試（後期日程）の選抜をもってすべての日程が終了しました。
入学試験の概要は次のとおりです（入試広報部）。

【入学試験実施概要（平成26年8月～平成27年3月）】

●医療保健学部

試験区分	試験日	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数
8月AO入試（医療情報学科）	平成26年8月13日（水）	10	7	7	7
9月AO入試（A）（医療情報学科）	9月13日（土）	5	7	7	6
9月AO入試（B）（医療栄養学科）	9月13日（土）	10	35	35	10
9月AO入試（B）（看護学科）	9月13日（土）	8	91	89	8
10月AO入試（医療情報学科）	10月11日（土）	8	7	7	7
12月AO入試（医療情報学科）	12月13日（土）	5	8	8	8
3月AO入試（医療情報学科）	平成27年3月4日（水）	2	4	4	4
3月特別AO入試（医療情報学科）	3月21日（土）	若干名	1	1	1
計		48	160	158	51
附属・協力校推薦入試	平成26年11月15日（土）	32	5	5	5
指定校推薦入試	11月15日（土）		27	27	27
公募制推薦入試	11月15日（土）		65	63	22
計		57	97	95	54
センター利用入試（前期）	平成27年1月17日（土）・18日（日）	40	903	903	323
一般入試（前期）	2月4日（水）	95	1018	953	258
一般入試（後期）	2月18日（水）	31	309	277	55
センター利用入試（後期）	1月17日（土）・18日（日）	9	24	24	12
計		175	2254	2157	648
合 計		280	2511	2410	753

●東が丘・立川看護学部

試験区分	試験日	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数
附属・協力校推薦入試	平成26年11月15日（土）	40	0	0	0
指定校推薦入試	11月15日（土）		0	0	0
公募制推薦入試	11月15日（土）		25	25	25
計		20	14	14	14
センター利用入試（前期）	平成27年1月17日（土）・18日（日）	20	45	45	32
一般入試（前期）	2月4日（水）	20	41	41	29
一般入試（後期）	2月18日（水）	60	125	125	100
センター利用入試（後期）	1月17日（土）・18日（日）	15	334	334	74
一般入試（前期）	2月4日（水）	100	129	129	28
一般入試（後期）	2月18日（水）	20	481	457	98
センター利用入試（後期）	1月17日（土）・18日（日）	5	191	180	31
計		20	146	132	17
合 計		5	45	33	4
センター利用入試（後期）	1月17日（土）・18日（日）	5	8	8	3
計		140	1336	1275	257
合 計		200	1461	1400	249
				臨床災害計	108
					357

●助産学専攻科

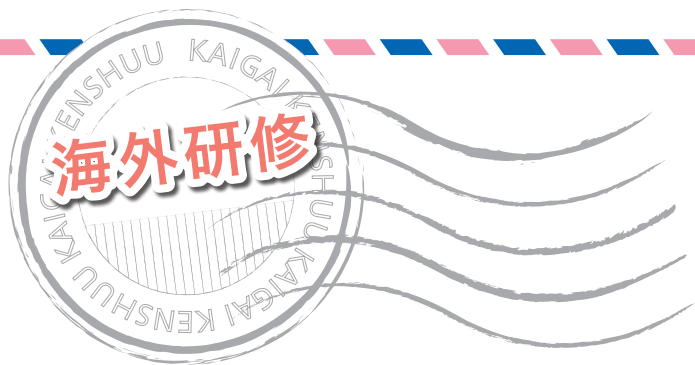
試験区分	試験日	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数
推薦入試	平成26年9月14日（日）	15	18	18	10
社会人推薦入試	9月14日（日）		1	1	0
一般入試	10月11日（土）		26	24	11
合 計		15	45	43	21

編集後記 Editor's note

- ▶開学10周年を迎えた平成27年度は、4月2日に入学式を挙げて新たな一歩を踏み出しました。来る12月3日（木）には10周年を祝う祝賀会を開催する予定です。この10周年を記念して作成したロゴマーク（和文）を本号の表紙右上部に掲げました。
- ▶本年4月25日にネパール連邦民主共和国において発生した大地震は大きな被害と国民生活に重大な影響を与え、未だに不安な状況が解消されていません。これにより平成23年3月11日の東日本大震災を思い起こし、他人事とは思えないという感覚を持たれた方々が多かったのではないかと思います。我が国はいち早く国際

緊急援助隊を派遣しましたが、医療チーム一次隊には本学の東が丘・立川看護学部看護学科災害看護学コース所属の石井美恵子准教授がチーフナースとして参加されました。帰国直後にご多忙のところ現地での活動報告をお寄せいただきましたので一読願いたく存じます。

- ▶「こころ」編集部並びに編集委員会委員の一部に交代がありました。今後ともより良い誌面づくりを心掛けてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



ヌアス・バリにて（到着日）

国際交流委員会では、全学合同海外（ハワイ大学）研修を、去る3月9日～16日（6泊8日）の日程で実施しました。参加者は、医療保健学部看護学科9名、同医療栄養学科3名、同医療情報学科4名、東が丘・立川看護学部看護学科6名で、学生合計22名、個別参加教員4名、引率者6名、総勢32名でした。

今年の研修も昨年同様、ハワイ大学看護・歯科衛生学部看護学科実践対応シミュレーションセンター（THSSC）で実施され、宿泊も同大学キャンパス内に立地する訪問研究者用の寮リンカーン・ホールを利用しました。

学内では、現地研修に先立ち、11月～3月の間ほぼ毎月1回のペースで、土曜日の午後、事前学習会を開催しました。講義およびグループワーク形式で実施し、全体学習会のほか、学科別学習会もそれぞれ適宜実施しました。

現地における全領域共通のプログラムは、以下の通りでした。

講義：医療チームの中の異なる医療職の役割、ハワイの原住民の歴史と健康、アメリカでの医療提供の実際、ハワイ大学の模擬患者システム、概念地図の作成とその意義、アジア太平洋地域におけるグローバルヘルスと気候の変動・食糧供給問題

演習：シミュレーターを用いた救命処置演習、救急状況におけるチームベースケア、低血糖患者へのシミュレーション演習（看護、栄養、情報すべての領域の役割が明確化）

見学：THSSC施設全体とIT支援システム、シュライナーズ小児病院、ハワイ大学キャンパスツアー

最終日は領域別の研修を行いました。五反田、東が丘の両看護学科は、シャミナーデ大学看護学部を訪問しました。アメリカの看護教育（講義）、授業参観、同大看護学生による模擬患者を使ったシミュレーション演習の見学、サービスラーニングフェア訪問、さらに、同大学生とのランチ交流会、食事後はフラダンスとソーラン節のお披露目会など、密度の濃い学習および交流の機会となりました。医療栄養学科と医療情報学科は合同で、午前中ハワイ州最大の医療センターであるクィーンズ医療センターを訪問し、午後には、コクアカリヒバレー（KKV）の地域保健センターを訪問しました。午前、午後とも栄養



エアの送り方を学ぶ



シミュレーション演習



シャミナーデ大学の看護学生との交流



KKVにて



3D hand simulation



交流お別れ会にて

と情報に関連する内容を中心に学習が進められました。

すべての講義、演習、見学終了後に、THSSCで修了式が開催され、Lorrie Wong THSSCセンター長から、学生1人ひとりに修了証書と記念品が手渡されました。

最終日の夜には、ハワイ大学とシャミナーデ大学の教師を招待して交流お別れ夕食会を開催、親交を深めることができました。また、大学などでの研修以外でも、ハワイでの異文化体験で多くの発見や学びがあったと学生たちは報告しています。研修後に実施した学生アンケートでは、学生の満足度はどの領域においてもほぼ100%でした。

今後、学生報告会を6月23日に開催し、その後、研修報告書を作成します。完成は9月末の予定です。

国際交流アドバイザー 早野 真佐子

就職結果

平成26年度 4年次生学科別進路状況

1. 就職状況

- 文部科学、厚生労働両省による、今春卒業大学生の4月1日現在の就職率は、96.7%（昨年同期比2.3ポイント増）でした。
○本学の就職率は医療保健学部、東が丘・立川看護学部を合わせ99.5%となっております。

2. 各学科の状況（平成26年度卒業生） ※各学科の数字は過年度生を含まず。

(1) 医療保健学部 医療情報学科 就職率98.2%

17) 医療保健学部 医療情報学1科就職166/276			(人)
就 職 者	就職決定者		54
	未 決 定 者		1
進 学 者	大 学 院 大 進 学 者	本 学	0
		他大学	0
	専 門 学 校		1
そ の 他			1
卒業延期者			9
合 計			66

※専門学校進学者 ・ 横浜看護中央専門学校

(2) 医療保健学部 医療栄養学科 就職率99.1%

就職決定者			107
就 職 者	未 決 定 者		1
	大 学 院	本 学	0
進 学 者	進 学 者	他大学	1
	専 門 学 校		0
そ の 他			1
卒業延期者			2
合 計			112

※大学院進学者 ・ 東京海洋大学大学院

(3) 医療保健学部 看護学科 就職率100%

			(人)
就 職 者	就職決定者	病 院	101
		保 健 師	2
未 決 定 者			0
進 学 者	大 学 院 者	本 学	0
		他大学	1
	専 門 学 校	本 学 (助産学専攻科)	4
そ の 他			1
卒業延期者			1
合 計			110

※大学院進学者 ・ 聖路加国際大学院

(4) 東が丘・立川看護学部 看護学科 就職率100%

就 職 者	就職決定者	病 院	110
		保 健 師	3
	未 決 定 者		0
進 学 者	大 学 院 者	本 学	5
		他大学	1
	専 門 学 校	本 学 (助産学専攻科)	1
そ の 他			4
卒業延期者			1
合 計			125

※大学院進学者 ・ 日本赤十字看護大学院

(5) 助産学専攻科 就職率100%

就 職 者	就職決定者	19
	未 決 定 者	0
合 計		19

平成26年度各種国家試験受験結果一覧

医療保健学部及び助産学専攻科

	看護師	保健師	助産師	管理栄養士
本学受験者数	(111)	(70)	(19)	(110)
	115	75	19	110
本学合格者数	(110)	(70)	(19)	(103)
	111	75	19	103
合 格 率	(99.1%)	(100.0%)	(100.0%)	(93.6%)
	96.5%	100.0%	100.0%	93.6%
全平均合格率 (新卒)	95.5%	99.6%	99.9%	95.4%
全平均合格率 (全体)	90.0%	99.4%	99.9%	55.7%

注) () は新卒者で内数である。

東が丘・立川看護学部及び大学院看護学研究科高度実践助産コース

	看護師	保健師	助産師
本学受験者数	(125)	(113)	(7)
	128	124	7
本学合格者数	(122)	(113)	(7)
	124	123	7
合 格 率	(97.6%)	(100.0%)	(100.0%)
	96.9%	99.2%	100.0%
全平均合格率 (新卒)	95.5%	99.6%	99.9%
全平均合格率 (全体)	90.0%	99.4%	99.9%

注) () は新卒者で内数である。